

PHRase

Personal Health Record active storage engine

コスト削減事例

株式会社ファーストプライオリティ

ケース1

- 52歳 男性

職場検診の胃バリウム検査で、萎縮性胃炎の診断、精密検査を推奨されA医療機関を受診した。
7年前にB病院でヘリコバクターピロリ除菌療法を受け、除菌成功と言われている。
B病院で毎年内視鏡検査を受けているが、検診で指摘されたため、自宅近医のA医療機関の消化器内科を受診した。
問診で上記の内容を話したが、再度、胃の内視鏡検査を行うように勧められた。

*胃バリウム検査と内視鏡検査の重複例。

医療機関で上部消化管に対する定期検査を受けており、検診としての胃バリウム検査は不要。

精密検査を推奨される状況でもなく、今回の近医受診も不要だった。

毎年内視鏡を行っているのであれば、バリウム検査は不要。

本ケースの無駄な医療費

胃バリウム検査 12,000～15,000円 医療機関初診料 2,880円

合計 14,880～17,880円

ケース2

- 49歳 女性

糖尿病でA内科クリニック通院中。2ヶ月おきに採血を受けている。

以前、脂肪肝と言われたことがあったが、普段の受診時に主治医から、肝機能に関して特に何も言われていない。

職場検診で肝機能異常を指摘され、B消化器内科を受診するよう推奨されたため受診した。

肝機能を含めて、一般項目および肝炎ウイルスの採血と、腹部エコー検査を受けた結果、脂肪肝の診断で減量を勧められただけだった。

*採血と画像検査の重複例。

肝機能異常は主治医が把握していたが、肥満による脂肪肝が原因と考えていた。

糖尿病に対する生活習慣指導に含まれるため、特に肝機能に関する言及はしていなかった。

また1年前の内視鏡検査前に受けた肝炎ウイルス検査では陰性だったが、本人は記憶していなかった。

さらに6ヶ月前に胆石疑いで腹部CT検査を受けており、その際に脂肪肝を指摘されていた。

本ケースの無駄な医療費

医療機関初診料 2,880円 採血 5,710円 腹部エコー検査 5,300円 結果説明時再診料 2,000円

合計 15,890円

ケース3

- 44歳 男性

職場検診でヘリコバクターピロリ（H.P）抗体陽性のため医療機関を受診するよう推奨されAクリニックを受診。
2年前にB病院でH.P除菌療法を受け、その後、尿素呼気試験で陰性を確認されている。
今回の受診ではその病歴について曖昧な記憶しかなく、勧められるままに上部消化管内視鏡検査と尿素呼気試験を受けた。
結果は萎縮性胃炎のみで、H.Pの現感染はなく、経過観察と言われた。

* 不要な受診と検査例。

H.P除菌歴があり、尿素呼気試験で除菌成功確認済みだった。
除菌治療後にH.P血中抗体採血検査は適応なし（抗体反応は数年以上陽性反応が続く可能性があるため）。
検診でのH.P抗体採血は不要であり、続く医療機関受診、尿素呼気試験の再検査も不要だった。

本ケースの無駄な医療費

医療機関初診料 2,880円 尿素呼気試験 5,030円 結果説明再診料 2,000円
合計 9,910円

ケース4

- 39歳 男性

1週間前に上腹部痛が出現し、A医院を受診。

採血を受け、急性胃炎の診断で処方を受けたが改善しなかった。血液データのコピーをもらったが紛失した。

B医院を受診し、A医院で受けた採血の結果を聞かれたが、大きな異常はないと言われたとしか記憶しておらず、個々の項目についてはわからなかった。

急性膵炎鑑別のため、もう一度採血を受けたが、今回も異常は認めず、胃炎治療に対する投薬を受け、その後軽快した。

* 同じ症状に対して、短期間に2回の重複採血

本ケースの無駄な医療費

2回目の採血 5,250円

ケース5

- 52歳 女性

1年前からAクリニックで高血圧治療中。初診時に採血や心電図、レントゲンなどの検査を受け、降圧剤の服用が開始となった。その後血圧は安定している。テレワークとなったため自宅近医のBクリニックを受診することになったが、高血圧の初診の場合、2次性高血圧の鑑別のための採血が必要と言われた。

検査結果は特に異常を認めず、同じ内服薬の継続となった。

その後、職場近医のAクリニックに戻り、血液データを確認してもらったところ、まったく同じ内容の検査だった。

*変動する可能性が低く、症状の経過からも必要性の低い重複採血を受けた例。

本ケースの無駄な医療費
甲状腺機能、副腎ホルモン等 12,150円

ケース6

- 32歳 男性

過去に数回、スポーツ中に右肩関節脱臼を受傷しており、以前A病院で手術を勧められ、術前検査としてCT検査、MRI検査などの受けたが、多忙で手術予定が立てられず、その後転勤となった。
今回あらためて治療の相談を希望し、近隣のB整形外科を受診した。
前医の画像データを入手することを勧められたが、遠方で受診が困難であったため、再度術前評価のため画像検査を受けることになった。

* 画像検査の重複例。

前医の画像データがあれば、CT、MRIの再検査は必要なかった。
少なくともこのケースの場合、新たな脱臼や外傷もなく6ヶ月以内の検査は検査する意義なし。

本ケースの無駄な医療費

MRI検査 19,000円 CT検査 14,700円

合計 33,700円

ケース7

- 56歳 女性

左母指の痛みが続くためA整形外科を受診した。重度の腱鞘炎の診断で手術治療を勧められた。術前検査として、貧血状態や肝機能、腎機能、糖代謝、感染症などの各種採血が必要と言われた。2ヶ月前に受けた健診に必要な項目が含まれている可能性が高いと言われたが、結果用紙を紛失してしまっていた。A整形外科からB健診医療機関への情報提供書をもらいに行くことも、時間的制約で困難であったため、必要と言われた検査を受けた。

* 血液データが管理されていれば、省ける可能性の高い検査。

本ケースの無駄な医療費
一般項目、感染症などの採血 約7,000円

ケース8

- 61歳 男性

1ヶ月前から腰痛が続き、職場近くのA診療所を受診した。腰椎レントゲン検査で大きな異常はないと言われ、鎮痛剤の内服と湿布で様子を見るように言われた。

10日経過しても改善しないため、B病院を受診した。再び腰のレントゲン検査を行い、違う種類の鎮痛剤を処方された。その後も痛みが続くため、1週間後にC病院を受診した。前医でのレントゲン画像をもらってくるように言われたが、受診先を変えた経緯から頼みづらいため、必要ならもう一度レントゲン検査を受けたいと答えた。その結果、腰椎周囲に異常を指摘され、精密検査で腫瘍が見つかった。

* 重複する画像検査

受診行動にも問題点はあるが、画像データが共有されていれば、重複する検査は避けられた。

本ケースの無駄な医療費

腰椎レントゲン検査 4方向 4,400円 2回

合計 8,800円

ケース9

- 58歳 男性

出張先で発熱と喉の痛みが出現したため、近隣のAクリニックを受診した。

扁桃腺炎のため抗生剤を服用が必要となった。

以前、抗生剤で薬疹の経験があったが、薬品名を覚えていなかったため、医師から一般的な抗生剤の処方提案され、承諾した。

翌日帰宅した夜に全身が発疹が出現し、痒みが強く眠れない状態だったため、夜間救急外来を受診した。注射を受け、翌日皮膚科を受診するように指示された。

午前休を取り、皮膚科を受診。咽頭炎に対して処方された抗生剤が原因だろうと言われ、抗アレルギー剤を処方され、後日もう一度受診した。

* 既知の内容での薬剤アレルギー
アレルギー歴を把握していれば、防げたはずの副作用。

本ケースの無駄な医療費
救急外来 9,360円 皮膚科外来 (2回通院) 4,310円
合計 13,670円 + 職場午前休

ケース10

- 46歳 女性

1ヶ月続く動悸を主訴に内科クリニックを受診した。

受診の前月にドックを受けていたが、すべてA判定の結果で診療と関係するとは考えなかったため、受診時に検診結果データは持参しなかった。動悸の原因は様々な可能性があるとして説明され、胸部レントゲン検査、心電図、甲状腺機能を含む各種採血検査を受けた。検査結果はいずれも異常所見はなく、更年期障害の可能性が高いと診断され、女性外来専門クリニックに紹介された。

女性外来医師からの指示で、手元にある検査結果をすべて持参したところ、内科で行った検査の大部分はドック検査の内容に含まれていると言われた。

*ドックと一般診療を自己判断で区別していた例。
検査結果を持参していれば多数の重複検査を避けられた。

本ケースの無駄な医療費
採血 12,970円 胸部レントゲン 1,100円 心電図 1,300円
合計 15,370円

ケース 1 1

- 64歳 男性

電車内で意識消失となっているところを他の乗客に発見され、駅最寄りの総合病院に救急搬送された。糖尿病で通院治療を受けていたが、本人は意識消失、家族に連絡がつかない状態で、病歴等の情報が全くないため、原因検索として頭部から腹部までの広範囲CT検査、採血、心臓エコー検査等の各種検査が行われた。意識消失の原因は低血糖発作であり、ブドウ糖の投与で速やかに意識が回復した。頭部や心臓の異常は認めなかった。

*糖尿病の既往歴情報があれば、速やかに回復が見込めた。

本ケースの省略できた可能性のある医療費
CT検査 14,700円 心臓エコー検査 8,800円
合計 23,500円

ケース12

- 55歳 女性

2年前に右乳癌の手術、化学療法を受けた。現在も3ヶ月毎にA大学病院乳腺科に通院し、腫瘍マーカーを含む採血と胸部CT検査と腹部エコー検査を受けている。

同時に1年前に検診で直腸癌を指摘され、大腸癌治療で高名なB総合病院外科を受診し手術を受けた。B病院にも3ヶ月毎に通院し、採血と胸部レントゲン検査、腹部CT検査を受けている。

さらに今回職場検診のオプションで5種類の腫瘍マーカー採血を受け、臍臓に関連する項目が高いという結果だったため、C消化器内科クリニックを受診した。

C消化器内科にはすべての検査データを持参したところ、様々な重複項目を指摘された。

*複数施設に通院し、検査結果が共有されていなかった例。

胸部CT検査と胸部レントゲン検査、腹部エコー検査と腹部CT検査。

さらに腫瘍マーカーはA、B、職場検診のすべての施設で重複する項目だった。

本ケースの無駄な医療費（より精度の高い検査を優先した場合）

胸部レントゲン 2,200円 腹部エコー検査 5,300円 CEA採血 1,020円 一般採血 4,400円 年4回

検診腫瘍マーカー採血 (CA19-9) 1,270円

合計 52,950円

ケース13

- 40歳 男性（ベトナム国籍）

日本在住4年目だが、日本語能力は日常生活をなんとかこなせる程度で、漢字は読めない。
年の近い友人が癌で亡くなったため、前の職場の検診で指摘された異常に関して心配になり、最寄りのAクリニックを受診した。
問診で「膵臓の癌がある」と医師に伝えたが、細かく説明ができなかった。検査をしないと何もわからないと言われ、採血、腹部MRI検査を受けた。
検査の結果、膵臓に異常はなく、肝臓に10mmの嚢胞が認められた。肝嚢胞は治療が必要なものではないと言われた。

*日本語能力の問題および、間違った認識のため不要な検査が行われた例。
検診結果から肝嚢胞に関する受診とわかれば基本的に検査は不要だった。追加するとしても腹部エコー検査のみ。

本ケースの無駄な医療費
腹部MRI検査 31,500円 採血 5,890円
合計 37,390円

ケース14

- 65歳 女性

15年前から糖尿病でAクリニックに通院している。治療は内服薬2種類で7年ほど前から薬の内容は変更がなく、月に一度受診し毎回採血を受けている。医師からは糖尿病のコントロールは良好で、内服薬を続けるように言われている。膝関節の手術を受けることになり、B総合病院の整形外科の担当医が糖尿病のクリニックに病状の問い合わせをしたところ、診療情報提供書と数回分の血液データコピーが送られてきた。院内の糖尿病専門医に手術に関する注意点を相談したが、糖尿病は軽症であるとのこと。一般的な医療モラルの範囲で考えれば月に一度の採血は過剰であり、3～6ヶ月に一度の採血で十分との話だった。

* 過剰な検査を継続的に受けていた例。

このクリニックの医師は、無自覚もしくは、意識的に、過剰な回数の採血検査を行っていた。頻回の採血で、ほぼデータに変動がないことが把握できていれば、診療報酬審査の介入や、適切な医療機関への転医のアドバイス等の対処が可能。

本ケースの無駄な医療費
採血検査 7,560円 過剰分 年8回
合計 60,480円 (年)

その他のケース

- 25歳 女性

職場検診で異常を指摘され受診。コレステロールの異常と記憶していたが、検診結果を持参しなかった。受診したクリニックでもう一度採血を受けたが、コレステロールの異常はなかった。結果説明時に検診結果を医師に見てもらったところ、異常を指摘されたのは貧血の項目だった。

→ 採血検査費用 4,340円

- 47歳 男性

旅行先で指を怪我し、救急外来で縫合処置を受けた。胃潰瘍の既往があったため、鎮痛剤と潰瘍予防薬を処方された。後日かかりつけ医に話したところ、普段処方されているものと同種の胃薬を処方されていた。→ 胃薬 609円

- 54歳 男性

右腕の痛みで整形外科を受診し頸部のMRI検査を受けたが、原因はよくわからないと言われ鎮痛剤を処方された。改善がなく、別の整形外科を受診した。頸椎症の鑑別のためMRI検査画像が必要と言われたが、前医に不信感があり画像をもらいに行くのは嫌だったため、再度MRI検査を受けた。結果、頸椎症は否定され、姿勢による頸肩腕症候群であり、その後のリハビリで改善した。→ MRI検査 19,000円

- 49歳 男性

痛風で長年地元の病院に通院していたが、職場近くのクリニックを新たに受診した。前月に採血を受けたばかりだったが、結果がないため採血が必要と言われた。→ 採血検査費用 5,750円

- 28歳 新婚男性

妻から風疹の検査を受けるように勧められたが、子供の頃に風疹に罹っているため必要ないと思っていた。帰省した際に妻が母親と話したところ、風疹ではなくおたふく風邪だったとわかったため、抗体検査を受けたところ風疹抗体は陰性だった。→ [妻が妊娠した場合に先天性風疹症候群のリスクあり](#)